

2014年度予算要求 (その②)

4. いつまでも住み続けられるまちづくりを

- ①各商店街および個人商店の活性化をはかるため、商業者と話し合い、実効性のある施策を講じること。
- ②市民交流プラザの使用料については、現行施設の設置目的に合わせた減免制度を取り入れること。
- ③市内各地の空き店舗を、公共の施設や民間施設として活用できるよう研究すること。固定資産税を減免し、利用したい市民が借りやすくすること。
- ④風俗・ギャンブル産業などが蔓延しないよう、条例を制定し、規制すること。
客引き防止条例については具体的に成果を明らかにすること。
- ⑤バリアフリー化は中心市街地だけでなく、市全体で推進し、高齢者・障害者等が安心して暮らせるようにすること。
- ⑥市民の生活の足を確保するため、市の責任で、デマンド交通等を導入すること。
- ⑦違法駐輪をなくすために、「通りに一つ駐輪場」を目指して、整備すること。
- ⑧放置車両対応のための条例をつくるなどで、放置車両を根絶すること。
- ⑨中間処理施設については、安全性、経済性を考慮して決定すること。
- ⑩放射能汚染に対する国民の不安の大本である原子力発電所の廃止を国に働きかけること。
- ⑪太陽光発電システムなど、自然エネルギー（再生可能エネルギー）発電のいっそうの推進を図ること。官民あ

げて推進できるよう対策を講じること。

- ⑫太陽光発電システム設置への助成を、共同住宅、事業所にも拡大すること。
- ⑬厚木市文化会館の使用料を引き下げること。あわせて、厚木市内の団体が利用した時の減免制度をつくること。
- ⑭愛甲石田駅北口タクシー乗り場を、障害者・高齢者等が利用しやすいよう、早期に改善すること。
- ⑮市内全域にわたって幅広い年代の市民が憩える公園を整備すること。
- ⑯青少年広場など、民間から借りている土地については、相続等が発生したとき引き続き利用できるような努めること。
- ⑰自転車安全利用促進と事故防止のため、市民に対して注意喚起を行い、自転車専用レーンの整備を進めること。
- ⑱本厚木駅近くに公衆トイレを設置すること。
- ⑲歩行者の安全のために歩道の確保に努めること。特に通学路の整備を進めること。
- ⑳市内業者の育成、愛市購買を進め、工事の契約にあたっては同一業者に偏らないよう、公平に選定すること。重複落札制限を一定期間設けること。
- ㉑恩曾川沿いの親水広場に簡易トイレを設置すること。
- ㉒高齢化が進む市内各所の住宅団地に対して、生活の質向上のために、具体的な対応を進めること。
- ㉓神奈川県に対し、「神奈川県緊急財政対策」の見直しを行い、自治体本来の役割を果たすよう、引き続き強く求めること。

5. 不況と雇用不安から市民の暮らしと営業を守る対策を

- ①労働者の失業対策（就労支援、住宅支援、生活再建）の充実をはかること。
- ②中小企業融資制度については、経済支援に効果的なものとする。
- ③事業所訪問を継続し、中小企業の実態を把握し、対策を講じること。
- ④厚木市独自に中小企業振興条例を制定すること。
- ⑤国に対して、ブラック企業の実態を把握・指導し、労働者保護のための法整備をするよう求めること。
- ⑥消費税増税後の住宅需要の停滞を見据え、住宅リフォーム助成制度を復活すること。
- ⑦小規模工事登録制度の申請事務を簡便化し、実効性あるものにする。
- ⑧中小業者や労働者・失業者に対する相談体制の充実をはかること。
- ⑨公契約条例は効果を検証し、実効性を図ること。国・県に対して法整備を求めること。
- ⑩所得税法第56条を廃止するよう、国に求めること。
- ⑪中小零細業者に大きな負担となる消費税の増税をしないよう、国に求めること。

6. 防災対策の充実を

- ①多数の人が利用する建物等の防災対策の点検を定期的に行い、改善を指導し、安全を確保すること。
- ②共同住宅、事業所に対する耐震診断および改修工事への助成制度を創設すること。
- ③木造住宅の耐震診断・改修工事への助成は、混合住宅についても対応できるよう、工夫すること。
- ④自治会への防災対策の助成充実とあわせて、個人の防災対策への援助・啓発の充実をはかること。
- ⑤指定避難場所となる小中学校の井戸設置を積極的に進め、災害時および教育用に活用すること。
- ⑥防災訓練に、多くの市民が参加できるようメニューを工夫し、指導すること。
- ⑦災害時要援護者支援制度について周知をはかり、対象者の登録を進めること。



新成人の中にはすでに社会人として働いている人もいます。今年のテーマは「可能性は無限大」。厚木市ならアツクあれ。中学校担任からのお祝いビデオレターには、懐かしい顔に歓声が上がりました。元氣な成人もいたようですが、式典は荒れることも無く順調に進みました。

新成人による実行委員会形式も7回目となり、毎年、その時の実行委員の思いが感じられるイベントとなっています。今年のテーマは「可能性は無限大」。厚木市ならアツクあれ。中学校担任からのお祝いビデオレターには、懐かしい顔に歓声が上がりました。元氣な成人もいたようですが、式典は荒れることも無く順調に進みました。

1月13日(月)は成人の日。厚木市の成人式「私たちのつどい」が厚木市民文化会館大ホールと小ホールの2会場で開催されました。厚木市の今年の新成人は2419人、そのうち出席は約7割の1600人でした。午前午後の2回開催から1回開催にして3回目になり、参加率は若干上がっているとのこと。保護者は別室で式典の様子を見ることができ、100人超の家族が集まりました。

話題あれこれ

はたちのつどい